

「はばたけ未来へ！ 京都市ユースアクションプラン」行動計画「II 困難を有する青少年がよりよく生きるための支援」 平成26年度実施状況

		具体的な取組	主な事業名	事業概要等	
若者サポートステーションにおける就職等進路決定者（累計）	98	青少年施設の居場所機能の強化	青少年活動センターにおける中学学習会の推進	生活保護世帯において進学を目指す中学生（主に3年生）を対象に、BBS会及び地域のNPO等の団体の協力を得て、大学生を中心とするボランティアが中学生の学習支援を行った。	<平成26年度に実施した地域>（※印は、平成26年度からの実施） 北、左京（※）、中京、山科、南、右京、洛西、伏見、醍醐
	108		北（みんなの居場所～ごぶS A T）	コミュニケーションが苦手な青少年等を対象にした料理やレクリエーション。 参加者延べ205名	
	216		中京（街中コミュニティ）	不登校、ひきこもり、対人関係に不安があるなど、課題を抱える青少年を対象に、自他と向き合い、互いに交流できる居場所を提供。 参加者延べ243名	
	239		伏見（ちょこっとプログラム）	主に対人関係等に苦手意識をもっている青少年を対象に、雑談やゲーム、料理や軽スポーツなどのプログラムを提供。 参加者延べ189名	
	324		伏見（縁庭プロジェクト）	花壇づくりを媒介とした交流を行った。ひきこもりやニートの若者を支援するNPOとの共催で、手作り市にも出店。 参加者延べ107名	
	392		児童館の中高生ボランティアによる主体的な活動支援	児童館の施設や機能を活用し、地域の住民や学生がボランティア活動の担い手になることによって、社会での役割を見出せる場を提供とともに、自己実現の活動を促進した。	
子ども・若者総合相談件数と支援コーディネーターによる支援件数		中高生と赤ちゃんの交流事業	中高生が乳幼児とふれあい、関わることにより、他者に対する関心を深めるとともに、共感の能力を高め、乳幼児への愛情を醸成する取組を行った。	市内50箇所の児童館で実施	
23年度	380				
24年度	420				
25年度	500				
26年度	550				
支援コーディネーターによる支援（相談区分がひきこもりの被支援者の状況）		学校と連携した早期の情報提供	進路未決定状態での中学卒業者等の相談窓口への誘導と支援	進路未決定状態で卒業又は中退する場合や、将来のつまづきにより支援が必要となる場合等に、早期に継続的な相談・支援に結び付けられるよう、「子ども・若者相談のしおり」を作成し、市立中学3年生と市立高等学校1年生の生徒及び職員に配布した。 なお、国立、府立、私立の中学校及び高等学校へも教員に対し送付した。	
年度	ひきこもり支援の割合（%）		高等学校へのキャリアコンサルタントの派遣の実施	京都市立高等学校4校に京都若者サポートステーションのキャリアコンサルタントを派遣し、個別相談やミニセミナーを行った。	○洛陽工業高校（全日制）、伏見工業高校（全日制、定時制）、西京高校（定時制）に派遣：延べ105回 ○個別相談件数：延べ397件 ○セミナー実施回数：12回、参加者数：延べ376名
子ども・若者支援地域協議会の枠組みによる支援の重点取組	ひきこもり支援の割合（%）	子ども・若者支援地域協議会における取組の推進	ニート、ひきこもり、不登校など社会生活を円滑に営むうえでの困難を有する子ども・若者を総合的に支援するため、関連する分野の関係機関で構成する「子ども・若者支援地域協議会」を運営した。 また、協議会における支援全般についての主導的役割を担う子ども・若者指定支援機関（公益財団法人京都市ユースサービス協会）と教育、福祉、保健、雇用等の関係機関や民間団体との連携により、子ども・若者の社会的自立に向けた総合的な支援を行った。		
	相談に至るまでのひきこもり期間（年）	子ども・若者総合相談窓口での相談活動の充実と推進	ニート、ひきこもり、不登校など社会生活を円滑に営むうえでの困難を有する子ども・若者及び家族からの相談に応じ、適切な支援機関の紹介及び助言等を行う。	相談件数：422件	
子若育成支援を行う民間団体との連携強化	ひきこもり支援の割合（%）	NPO等の民間支援団体との連携強化	子ども・若者指定支援機関が、NPO等民間団体の実施する子ども・若者の社会的自立に向けた新規・充実事業に助成を行う「NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業」を実施するとともに、NPO等民間団体による活動紹介・交流会を開催した。	NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業 ・10団体に対して助成 NPO等民間団体による活動紹介・交流会 ・参加者数228名	
	相談に至るまでのひきこもり期間（年）				
平均	6.4				
最長	20				
最短	~1				
23年度	5.8				
24年度	6.1				
25年度	5.9				
26年度	5.7				
子ども・若者総合支援事業の取組により、自立に向け改善した青少年の割合		情報提供の推進	関係機関と連携した子ども・若者総合支援の周知拡大	関係機関との連携の下、様々な機会を活用して、普及啓発活動に取り組んだ。	・子ども・若者総合相談窓口のチラシの区役所等への配架、各局等における広報物への掲載 ・市民しんぶん、ケーブルテレビ、電光掲示板等による広報 ・講演会及びNPO等民間団体による活動紹介・交流会の開催（12月） ・普及啓発物品（付箋紙）の作成、配布
年度	ひきこもり支援の割合（%）		「支援機関情報サポートブック」の作成	ひきこもり等の困難を有する子ども・若者の社会的自立に向けた相談や支援を行っている機関・団体の情報を紹介した「支援機関情報サポートブック」を作成し、広く配布した。	作成部数：15,000部
(補足) I 生き方デザイン形成支援	ひきこもり支援の割合（%）	適切な支援を行うための支援者の資質向上	子ども・若者総合支援事業研修会の開催	子ども・若者支援に携わる支援者の資質向上及び関係機関の連携強化等を目的として、子ども・若者支援地域協議会の構成機関に所属する支援者とNPO等民間団体の支援者を対象にした研修会を開催した。	開催回数：4回 延べ参加者数：120名
23年度	58		スーパーバイズの実施	子ども・若者総合支援事業の個別ケースの支援を展開する中で、子ども・若者指定支援機関の支援コーディネーターや子ども・若者総合相談窓口相談員が、心理及び社会福祉等の知識の補完やアセスメント能力の向上を図るために、専門家から助言・指導を受けている。	実施回数：24回
青少年が参画している審議会等の割合					
27年度目標数値	30				
25年度目標数値	18				
23年度	19				
24年度	18				
25年度	11.9				
26年度	12.2				
23年度	7.3				
24年度	8.4				